

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No278

(仕事のこつ)

集中できる場所を見つけて自分を追い込む、時間とタスクを紐付けて量感を磨く 石井英真先生(京都大学教育学研究科准教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>

E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)

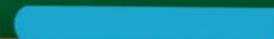


石井 英真
いしい てるまさ

京都大学大学院教育学研究科准教授

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。日本学術振興会特別研究員（PD）、京都大学大学院教育学研究科 助教、神戸松蔭女子学院大学専任講師を経て、2012年4月より現職。

- ・ 専門は教育方法学（学力研究）＝学校ですべきこと、できることについて原理的・実践的に探究（教育的価値論）
- ・ 授業という営みへのこだわり＝ブルームの目標分類学と斎藤喜博の教育美学との間（教育技術論）
- ・ 専門医であると同時に町医者でありたい＝授業改善を軸にした学校改善の取り組み（学校改革実践）



たくさんのご著書があります

現代アメリカにおける
学力形成論の展開 **再増補版**

スタンフォードに基づくカリキュラムの設計

Development of theories on educational objectives and assessment in the United States
Designing standards-based curriculum

石井 英真

授業づくりの
深め方

「よい授業」をデザインするための5つのツボ

石井英真 著

未来の学校

ポスト・コロナの公教育のリデザイン

教育機能や保護機能等において「大きな学校」を追求すること、公共性と公平性の実現のためにふんばること。萎縮と不信の連鎖から挑戦と信頼の連鎖へ――

苦境に立ってきた公立学校こそ、「眠れる獅子」のような可能性を秘めている！（本書より）

石井英真

高等学校

ほんものの学び、
授業の深み

授業の匠たちが提案するこれからの授業

石井英真 著

中学校・高等学校

授業が変わる
学習評価
深化論

石井 英真

観点別評価で学力を伸ばす「学びの舞台づくり」

嫌わしいだけの学習評価じゃもったいない！
知識の暗記・再生を超えて、
従来の文脈で生きて働く「学力」を育成するために。

図書文化

教育「変革」の
時代の
羅針盤

「教育DX×個別最適な学び」の光と影

石井 英真

流行に踊る

日本の教育

本当に大切なことは、私たちの足元にある！

改革を煽動する言葉に踊らされず、
安易な批判や復古趣味に陥ることなく、
未来志向で
地に足のついた
教育の
真の力を再考する！

石井英真 著

GIGAスクールのなかで

教育の本質を問う

子ども主題の学びと現場主題の改革へ

1人1台端末の先に問える教育の本質とは？
教育界をリードする二人が
熱く語り尽くした780分！！

石井英真 × 河田祥司

学習者主体 活用事例付

算数教科書の
わかる教え方

3・4年

石井英真 (監) 志田倫明 (監)

教科書を子ども目線で読むと…
「算数で何が学べたか」

ゴールから
つくる授業

図書文化

学びの場をおさえる

学習評価

深い学びを促す [指導と評価の一体化] 入門

小学校

石井英真 鈴木秀幸 著

学びの舞台づくりで評価が変わる！

1. 算数・国語・歴史を区別する
算数の概念と国語の学習課題をつくる
2. 指導と評価機能が一体的に算数・国語をつくる

図書文化

学びの場をおさえる

学習評価

深い学びを促す [指導と評価の一体化] 入門

中学校

石井英真 鈴木秀幸 著

学びの舞台づくりで評価が変わる！

1. 算数・国語・歴史を区別する
算数の概念と国語の学習課題をつくる
2. 指導と評価機能が一体的に算数・国語をつくる

図書文化

ヤマ場をおさえる

単元設計と
評価課題・評価問題

中学校
社会

石井英真 高木 俊

全単元の評価プランと
B/A判定例 に学ぶ、
シンプルな観点別評価

図書文化

ヤマ場をおさえる

単元設計と
評価課題・評価問題

中学校
国語

石井英真 吉本 信

言語活動ごとの評価プランと
B/A判定例 に学ぶ、
シンプルな観点別評価

図書文化

教育学年報
Annual Book of the Japanese Educational Research

11

教育研究の新章

New Chapter of the Japanese Educational Research

下司 晶・丸山英樹・青木栄一・渡中洋子・
仁平典宏・石井英真・岩下 誠 編

No274

新著の紹介



教育DX × 個別最適な学びの光と影

石井英真先生

(京都大学大学院教育学研究科 准教授)

溝上慎一の教育論「動画チャンネル」(基本的に毎週水・土に配信しています)

それではご覧ください

自分なりの仕事術のようなもの

- 場所とタスクを紐づける。
＝この場所では何ができるか、何をするかということを考える。集中できる場所をつくる(「精神と時の部屋」的なものを持つ)。
。場所でやることを区切って極力事務作業は大学の限られた時間に収めたり、自宅でゆるく過ごしているときに。
- 時間とタスクを紐づけて量感を磨く。
＝5分あるからこれくらいできるかなといった形で、こまごましたタスクを短い時間で片づけたり、やることを見積もったりする。
- 研究するとは日々考え続けることである。
＝常に頭で何かを考え続けている。常にあれこれ考えていることで、問題状況への備えとする。
- 何か生まれそうなワクワクする瞬間には時間を割いて立ち会う。
＝常に「それは何のために?」「いかに効果的にするか?」といったことを考える合理性は重要だが、コスパ至上主義になってはいけない。事務的なものは効率的にだらだらせず仕上げるが、何か生まれていると感じるときは流れを切らずにその時間を大事にする。何か生まれそうな場には時間やコストをおしまない。こなす仕事でなく楽しく生み出す感覚を大事にする。
- 少しずつでも生み出し続けること。
＝ずっとちょっとずつ生み出し続けているから、捻り出さなくても、時間を見つけるだけで済む。日々インプットとアウトプットを往還させながら、細かい書き物の積み重ねとマイナーチェンジの繰り返しから、大物につなげる。
- 人生に無駄なことなし。
＝無駄や失敗や回り道はたくさんしてきたし、苦難や不条理もたくさん経験してきたけれど、経験はすべて活かせる。貧乏性ゆえに無駄にしたくない。つながりをたぐりよせる。まねびと学び取りの名人となること。